

第6回「リノベーションによる居心地のよいまち空間の形成—仏生山まちぐるみ旅館の取り組み—」

●講師 : 岡昇平氏 (設計事務所岡昇平代表、仏生山温泉 番台)

●講義日時 : 2018年11月9日(金) 18:30~21:20

●①仏生山のこと

- ・ 仏生山町は人口30万人の高松市域に含まれる約1.5km四方に8,000人住まい、田畑と民家のある郊外の平地である(高松から南10kmに位置)。木造2階建てくらいの住宅が多く、高松藩の菩提寺の法然寺があることから「山」の文字が町名についている。温泉街でも無く、歴史的まちなみは少しくらいしか残っていない。

●②仏生山温泉 (岡先生ご設計施設)

【温泉のこと】

- ・ 仏生山温泉は、日帰り温泉で2005年開業した新規の温泉で、地元のお客さんが8割、観光客が2割である。20年前に高松クレーターが見つかったのがきっかけで、岡先生のお父様が温泉を掘り始めたのが仏生山温泉に繋がった。  
(高松クレーター: 直径4km、深さ3kmのお椀型のクレーターで金沢大学の調査の重力調査で判明)
- ・ 泉質は、源泉かけ流し重曹泉でぬるぬるしていて、炭酸が発生した。
- ・ 泉質、温度、水量については、仏生山温泉は満点であると評された。

【施設のこと】

- ・ 建物外観は、近代的なファサードとなっており、室内は、ホール兼廊下の休憩スペース、食堂、中庭に面した露天風呂、内湯、脱衣室がコの字型平面の構成である。
- ・ 特徴の一つに、美味しいかき氷(美味しい食べ方は夏たべること)があるのが特徴である。
- ・ 仏生山温泉小書店(50m書店(本当は20m))は、お風呂でずっと本が読めて、居心地がよくなる空間である。「ふるまい、過ごし方」で居心地よい空間となる。
- ・ 派生事業の「ことでん温泉」は、「ことでん」+「仏生山温泉」がセットになったお得なもので、改札が温泉の入口と見立てられる。うちわ切符やポスターも特徴的である。

●③仏生山まちづくり旅館

【まちを旅館に見立てること】

- ・ 「仏生山まちぐるみ旅館」とは、まち全体をひとつの旅館に「見立てる」こと。実際に旅館という建物は無く、客室や大浴場、食堂、カフェ、物販店などさまざまな役割がまちの中に点在している。道を廊下とし、まち全体で旅館の機能を担う。既存の店舗や空家をカフェにリノベーションして、10年かけてまちの価値や魅力を重ね合わせる、ゆっくりした取り組みである。

## 【まちと旅館のこと】

- ・まちを旅館に見立てるということは、ちょっと変わったことをしているように思われるかもしれないが、そうでもない。なぜなら、旅館はそもそも小さいまちのことである、その中に生活が全部ある。
- ・旅館は、衣食住の機能がひとつの建物の中に入っており、まちは、衣食住の機能が地域に分散している、どちらも「暮らし」のことなので、自然である。
- ・「まち」と「旅館」共通点①は、「機能」で、どちらも衣食住を含む「暮らし」を担っている。
- ・「まち」と「旅館」共通点②は、「構造」、「点」から「線」「面」をつくっている。
- ・旅館の構造の特徴は、面と線をつくる。  
旅館は、点があつまる／面の関係→小さな機能が集まって大きな機能をつくる集合体の名称である。  
旅館は、点と点をめぐる／線の関係→点の繋がりと巡ることの必然性をつくる連続体の名称である。
- ・本来「点」が、「線」と「面」をつくる構造は、健康的なまちが持つ構造と同じで、きちんとした「繋がり方」や「コミュニティ、集団」のことである。
- ・「旅館」が持っているそういう構造をちょっと「まち」に重ねてみることで、「まち」が良くなる。
- ・既存のまちに、旅館のレイヤーのようなものをそっと、乗せる感じである。
- ・もともと、まちに旅館施設はなかった2012年、まちぐるみ旅館のひとつめの客室になる「縁側の客室」が開業し、店や場所をめぐる関係がはじまった。

## 【仏生山まちぐるみ旅館の年表】

- ・2005年：まちぐるみ旅館スタート
- 2012年：まちぐるみ旅館「縁側の客室（この間、2005年～7年間何もなし）」
- 2014年：「仏生山天満屋サンド（洋服屋をリノベしたカフェ、素人経営）」／  
「へちま文庫（建具屋倉庫をリノベした書店、人が来ない、週一のカレーの日は人がくる）」
- 2015年：「トイトイトイ（雑貨屋、木造賃貸住宅兼用）」／「四国食べる商店（住宅のリノベ）」／  
まちぐるみ旅館「温泉裏の客室（4室、元積水ハウス、内に柱無く良かった）」
- 2016年：「ノラ（倉庫をリノベした飲食店）」／「ことでん電車図書室」
- 2017年：「縁側の編集室（旧まちぐるみ旅館の客室でイベントスペースである）」／  
「彫刻の家（元住宅）」／  
「仏生山駅前コーヒー／（銀嶺（期間限定、終了未定）（短時間施工）」

## 【なぜ、まちぐるみ旅館をはじめたのか】

- ・東京から戻りつまらなかった為、にやにやしながら暮らしたかった。
- ・暮らしやすいまちとは、みんなが自由に享受できる「魅力的な事柄」がたくさんあって、質が高いこと、みんなが自由に享受できる「魅力的な事柄」のことを「地域の共有価値」と呼ぶ。  
もちろんお店は、「地域の共有価値」に含まれる。
- ・お店は、店主が自己利益のためにしているに見られがちだけど実はそうではなく、お店の本質は交換、豊かなやりとりをする場所である。必ず相手がいって、だれかの役に立っていて、みんなが受益できる構造になっている「地域の共有価値」のひとつである。お店は民間が運営する公共施設である。

- ・「地域の共有価値」には以下の役割分担がある。
- ① 山や川などの自然環境とかの豊かさは、神様である。
- ② 橋や道などの社会インフラとかは、行政である。
- ③ 美術館や図書館などの公共施設とかは、行政である。
- ④ 学校や病院などの公共サービスとかは、行政である。
- ⑤ お店などは、民間である

#### 【町ぐるみ旅館の役割】

- ・民間によって（民間の役割）まちに、みんなが利用できる「地域の共有価値」を増やしたり、質を高めるための方便である。
- ・まちぐるみ旅館がもたらすものは以下である。
- ① まちにお店が増える・・・あらかじめ魅力をつくる①集合する魅力、②連携する魅力。
- ② まち全体を意識するきっかけ・・・まちを自分ごとと思う。
- ③ 補い合う関係・・・店ごとなめあう関係性、輪郭広くなる。

#### ●④大切にしたいこと

- ・まちぐるみ旅館の取組みにおいて、大切にしたいことは以下である。
- ① にやにやできること・・・くらしの質をどう向上させるか。
- ② みんなをまきこまない・・・見立てるだけで自由である。
- ③ 補助金を使わない・・・補助金は弊害3つある  
(継続性無い、内容を無理にすり合わせしない、甘えの構造(100点目指さない))。
- ④ まちをもりあげない・・・UP、DOWNだけで終わらないように。
- ⑤ 観光地にしようとしめない・・・外にお金を出さない、入れない。
- ⑥ 日々の暮らしのなかからまちがよくなる・・・まちづくりだと 言って頑張らない。

※仏生山まちづくり旅館のような取組には、谷中のHAGISO他がある（日本まちやど協会）。

(文責：M18AA515 信藤勇一)